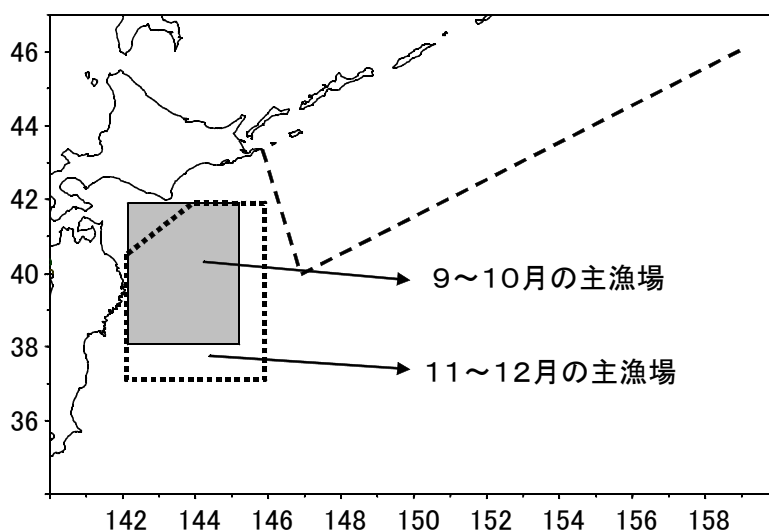


## 平成19年度北西太平洋アカイカ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター  
遠洋水産研究所がとりまとめた結果 －

### 今後の見通し(2007年9月～12月)のポイント

155°E以西の北西太平洋におけるアカイカの来遊水準は2006年を上回り、サイズは大型



### 問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班

担当：大隈、田中、佐藤

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press>

独立行政法人水産総合研究センター 遠洋水産研究所 業務推進部

電話：054-336-6000、ファックス：054-335-9642

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://fsf.fra.affrc.go.jp/>

## 平成19年度北西太平洋アカイカ漁況予報

### 今後の見通し（2007年9月～12月）

対象魚種：アカイカ

対象海域：155°E以西の北西太平洋

対象漁業：いか釣り

対象魚群：冬春生まれ西部系群（2007年級群）

魚体の大きさは外套背長で表示

- (1) 来遊水準：2006年を上回る。
- (2) 漁期・漁場：9～10月の主漁場は、38°～42°N、142°～145°Eに形成される。  
11～12月の主漁場は、37°～42°N、142°～146°Eに形成される。
- (3) 魚体：2006年と同様に大型。10月の魚体は25～36cmが主体。

### 漁況の経過（2007年4月～8月）および今後の見通しについての説明

#### (1) 資源動向

漁獲対象系群の資源水準を8～9月に北西太平洋で実施しているいか釣りの第2次一斉漁場調査の平均CPUE（尾/台/時間）より推定すると、1974～1993年にかけて平均CPUEは低水準（1.1～9.4）であった。その後、1994～1998年まで平均CPUEは1996年を除いて高水準（10.9～14.9）が続き、資源水準も高かったと推定される。しかし、1999年に資源水準は大きく低下し、2000年を除いて2002年まで低水準（0.5～3.9）であった（表1）。そして、2003年に再び回復し（7.3）、2004～2005年と比較的高い水準（4.2～9.4）を維持した。以上のように、資源は比較的短い期間（5～10年）で大きな変動を示している。

#### (2) 2006年の漁況

2006年の上記CPUEは前年を大きく下回り（0.6）、近10年では1999年に次ぐ低い水準であった（表1）。2006年の漁獲量（9～12月、製品重量）は192トンであり、2005年（773トン）の25%に激減し、近5年平均ではわずか8%であった（表2）。2006年の漁獲量の減少は、資源水準低下が主因であるが、145°E以西に漁場が形成されなかったことと、中型いか釣り船が日本海のスルメイカを主対象としたこともその一因と考えられる。ちなみに、2002年や2004年に見られた漁獲量の減少は、資源水準低下が主因ではなく、アカイカを主対象とした漁業が9～12月に殆ど実施されなかった影響が大きいと考えられる。近年、アカイカ漁業の主力である中型いか釣り船は、日本海等でのスルメイカ漁業に重心を移しており、そのため、アカイカの漁獲量が資源

水準とは関係なく大きく変動する結果となっている。

### (3) 2007年の漁況経過（主に4月～8月末）

- ・北海道太平洋海域：道南では8月末までの漁獲はない（前年0）。
- ・三陸海域：八戸港の8月末までの水揚げは3,602トンであり前年（1,780トン）を上回った。なお、8月までの漁獲主体は170°E以東の海域であり、本予報で予測する系群とは異なる群が漁獲の対象となっている。岩手県主要港での8月末までの漁獲は65トンである。（前年0トン）。宮城県主要港での8月末までの漁獲は32トン（前年0トン）。
- ・常磐海域：福島県主要港での7月末までの漁獲はない（前年0トン）。

### (4) 関連調査結果

予測対象海域へのアカイカの来遊量および分布状態等を把握するために、試験研究機関等の調査船によるいか釣り漁獲試験が、三陸～北海道の太平洋海域（155°E以西）において、2007年6月中旬～7月上旬（第1次漁場一斉調査：4隻）、8月下旬～9月上旬（第2次漁場一斉調査：5隻）に実施された。また流し網調査が西部～中部北太平洋（175°30'E以西）において、7月（1隻）に実施された。

- ・第1次漁場一斉調査：6月中旬～7月上旬の調査によれば、アカイカは144°E以東の沖合域に広く分布しており、沿岸域では少なかった。調査での有漁調査点割合および平均CPUE〔各調査点CPUE（釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）の平均〕は31.7%と1.0（尾/台/時）であり、2006年調査での29.1%と0.2（尾/台/時）に比較すると、CPUEが大きく増加した。
- ・第2次漁場一斉調査：8月下旬～9月上旬の調査によれば、アカイカは沿岸から沖合まで広く分布しており、特に八戸沖や気仙沼沖などの三陸沿岸や北海道日高の沿岸に多く分布していた（図1）。CPUEが10を越えた地点は7地点で、平均して分布密度は高い傾向にあった。2007年の有漁調査点割合および平均CPUEはそれぞれ74.4%と6.8（尾/台/時）であり、2006年〔50.0%、0.6（尾/台/時）〕に比べ有漁地点割合、CPUEともに大きく増加した。特にCPUEは前年比1133%、近5年平均の148%に増加した（表1）。
- ・流し網調査：7月の調査によれば、アカイカは近海から沖合まで広く分布しており、特に我が国周辺（155°Eおよび144°Eライン）に多く分布した（図2）。2007年の我が国周辺のCPUE（調査目合い34反当り尾数）は274尾で、2006年の44尾に比べ大きく増加した（前年比622%）。

### (5) 魚体の大きさ

2007年8月下旬～9月上旬に実施された太平洋いか類第2次漁場一斉調査で、いか釣り機によって漁獲されたアカイカの外套背長組成は、24cmに峰を持つ単峰型タイプであり、20～28cmの個体の比率が高くなっていた。一方、2006年同期の外套背長組

成は21cm、24cmに峰を持つ双峰型であり、19～28cmの個体の比率が高くなっていった。以上より、2007年は24cm以上の大型個体の比率が高く、前年同様に大型個体の割合が高くなると考えられる。

アカイカの月間成長量は村田・早瀬(1994)によると、6～10月で2.7～4.0cmと推定されている。

#### (6) 東北海区海況予報

アカイカの分布・移動は黒潮系暖水、暖水塊並びに親潮の動向と密接に関連している。2007年7月の東北海域の海況は、親潮第1分枝の東北近海側の南下傾向が前年より弱く、また津軽暖流の張り出しは前年よりやや弱くなっていた。すなわち、前年に比べ、近海側の漁場形成を阻害する要因となり得る親潮第1分枝の東北沿岸側の南下が弱かった。なお、2007年9～11月の東北海区の海況は次のように予測されている(平成19年度北西太平洋サンマ長期漁況海況予報会議東北海区海況予報資料による)。

- ・近海(146°E以西)の黒潮北限位置は、かなり南偏～やや南偏(35°20'～36°20'N)で推移する。
- ・黒潮系暖水(100m深10°C以上)の北限位置は、近海で平年並に推移する。
- ・下北半島沖および常磐沖の暖水塊は停滞する。
- ・親潮第1分枝の張り出しは、平年並～やや北偏(40°30'N以北)で推移する。
- ・親潮第2分枝の張り出しは、平年並(39°N以北)で推移する。
- ・津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、やや強勢(143°30'E付近まで)で推移する。

#### (7) 今後の見通しの説明

いか釣り漁獲試験結果から、北西太平洋に來遊するアカイカ冬春生まれ西部系群の資源水準は、低水準であった前年から大きく増加し、平年並みかそれ以上に回復したと推測された。流し網調査でも近海から沖合域の広い海域で資源が前年に比べ顕著に増加したことが示された。特に高密度に分布する海域は、155°E以西の我が国周辺域である。

近年、アカイカ漁業は中型いか釣り船の減少およびスルメイカ漁業との兼業等の影響を受け、以前とは操業形態が大きく異なっている。中型いか釣り船の漁獲成績報告書を解析した結果(篠原ら、未発表資料)、1999年以降、9～10月の主漁場は39°～43°N、142°～149°E、水温15～21°Cの海域に形成されていた。また、11～12月の主漁場は、37°～42°N、142°～146°E、水温7～17°Cの海域に形成されていた。

2007年9～11月の東北海区の海況は、親潮第1分枝がやや北偏、沖合の親潮第2分枝が平年並、黒潮系暖水が平年並みと予測されている。親潮第1分枝の東北沿岸域への

南下が弱いため、9月には東北近海での漁場形成があると予測される。10月以降は、東北海域における各水塊の動向がほぼ平年並と予測されていることから、アカイカの漁場形成はほぼ平年並と考えられる。

月間成長量を考慮すると、10月の漁獲主体は25～36cmになると推定される。

※本予報は平成19年度をもって終了となります。

(なお、沖合域のアカイカの資源状況については、「国際漁業資源の現況（水産庁・水産総合研究センター）」をご参照下さい。)

表1. 6～9月の水試・水研調査船によるいか釣り調査漁獲結果（第1次、第2次漁場一斉調査）から算出したアカイカの有漁地点の割合及び平均CPUE<sup>1)</sup>

年	地点数	6月中下旬 <sup>2)</sup>		8月下旬～9月中旬 <sup>3)</sup>		
		有漁地点割合(%)	平均CPUE	地点数	有漁地点割合(%)	平均CPUE
1999	32	65.6	2.7	40	48.7	0.5
2000	33	39.4	0.5	40	87.2	11.6
2001	46	47.8	0.8	43	76.2	3.9
2002	44	47.7	0.3	55	51.9	1.4
2003	50	18.0	0.6	47	53.9	7.3
2004	54	37.0	4.7	45	53.3	9.4
2005	48	43.8	0.7	52	56.9	4.2
2006	55	29.1	0.2	53	50.0	0.6
2007	41	37.1	1.0	43	74.4	6.8

1) 各地点での釣り機1台1時間当たりアカイカ漁獲尾数の相加平均

2) 37-00N～40-59N, 143-00E～154-59E 3) 39-00N～43-59N, 141-00E～150-00E

表2. アカイカの経年（年度）および9～12月の漁獲量

年	4-3月計 (t)	9-12月		計 (製品重量, t)
		生鮮 (製品重量, t)	冷凍 (製品重量, t)	
1994	71,016	3,556	32,602	36,158
1995	60,370	6,002	19,109	25,111
1996	58,445	1,606	20,439	22,045
1997	64,712	1,610	26,349	27,959
1998	62,684	3,570	30,300	33,870
1999	25,763	130	8,753	8,883
2000	28,099	1,035	10,141	11,176
2001	21,295	111	4,240	4,351
2002	11,964	0	478	478
2003	28,189	522	5,733	6,255
2004	10,727	8	352	360
2005	20,179	718	55	773
2006	2,928	11	181	192

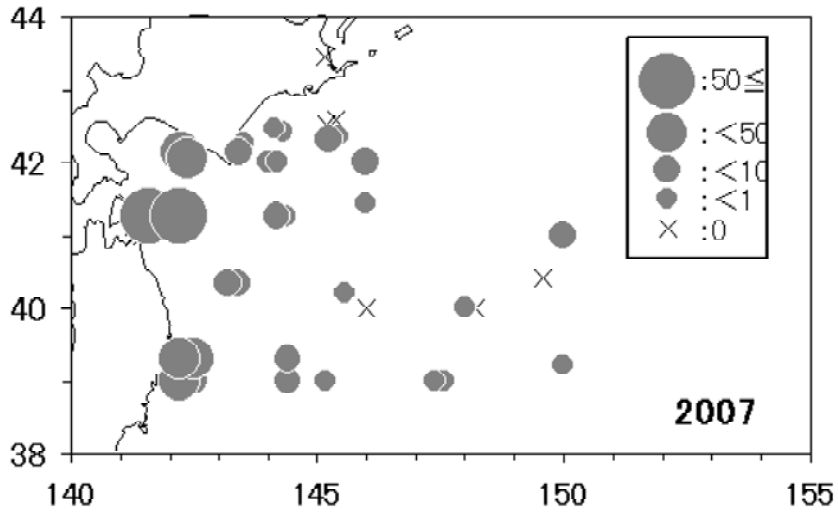


図1. 第2次漁場一斉調査で漁獲されたアカイカのCPUE分布  
(釣り機1台1時間当たり漁獲尾数)

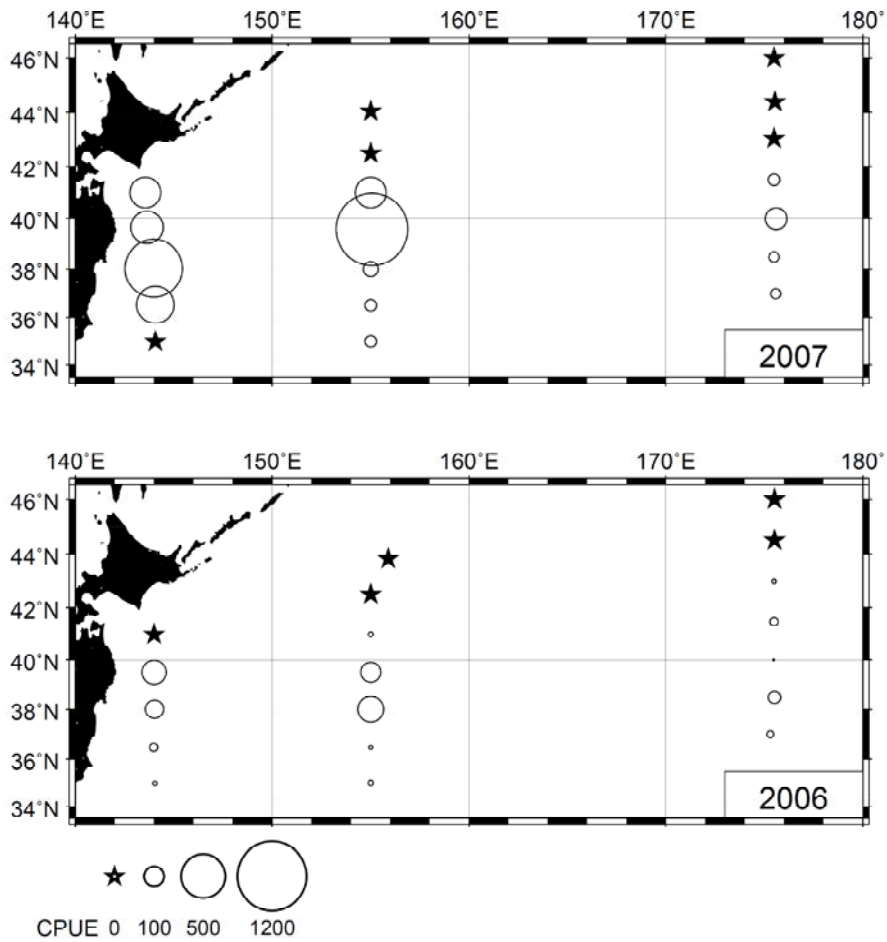


図2. 7月の流し網調査で漁獲されたアカイカのCPUE分布  
(調査目合い34反当り尾数)

冬春生れ群 (外套長33cm未満) について示したもの。

## 参 画 機 関

北海道立釧路水産試験場 北海道立函館水産試験場  青森県水産総合研究センター  岩手県水産技術センター  宮城県水産研究開発センター  福島県水産試験場  茨城県水産試験場  社団法人 漁業情報サービスセンター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課  独立行政法人 水産総合研究センター 北海道区水産研究所 東北区水産研究所 遠洋水産研究所
--	--